

トップ6のインテリジェント・デザインの証拠

【Greatchain 訳注】

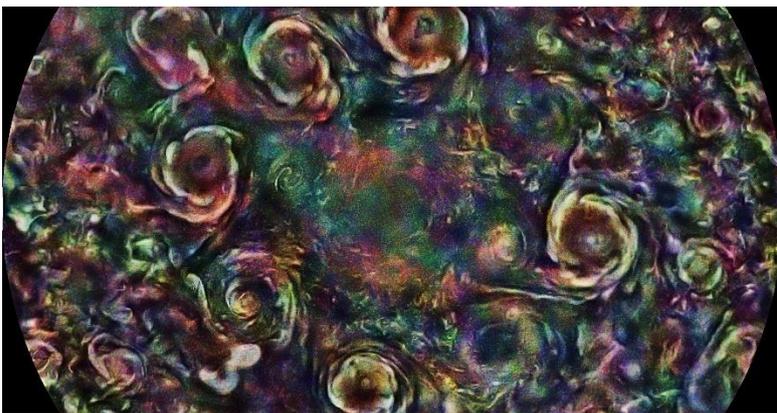
まず冒頭で ACLU という団体が、いかにいい加減なものであるかがわかる。これがかなりの影響をもつ団体であるだけに、その害悪の大きさが想像できる。今のところ我が国でも、実質的に、この ACLU の宣伝が正しく、ID は科学ではないことになっている。読者は、この ID 論者の議論の、迫力と説得力をまず感じ取ってほしい。引用されている Science Uprising (科学の反乱) のビデオだけでも、この運動の真剣さがわかるだろう。これは、確実な証拠によって、唯物論科学の間違いを証明する運動だが、それが結局は、人間そのもののあり方に関係してくる。

特に、「あなたは、子どもたちの世界観の形成に、どう責任を取るのか？」と、我々は問われている。「世界観？ そんなものが大事ですか？ そりゃ道德教育はしますよ。しかしあとは、科学教育をしっかりとやればいいのではないのですか？」と、おそらく多くの人が答えるだろう。果たしてそれでいいのかを、この論文は論じている。

唯物論者の間違い (=自然界の背後の知性などない) の証拠として議論される Fine-Tuning について、この論者はかなり詳しく論じている。正直を言えば、私自身は素人であるために、これを論ずるときに、自分の言葉でその細部まで説明することができず、いつも欲求不満を感じていた。今、手ごろな詳しきで、それが提供されたことに感謝したい。私はその比喻として、透明人間の親が、愛する子供に必要なすべて与え尽くすのだが、子供はそれに気づかず、感謝もせず、当たり前のこととして一生を終える話をした。今、この論文を読んで、この比喻を修正する必要はないと考える。

Granville Sewell, Evolution News

October 28, 2020



ACLU（米自由人権協会）の次のような発言は、メディアや学界を大いに代弁するものである：——インテリジェント・デザイン理論は「単に、ある物が非常に複雑に見えれば、それは自然的原因によって起こったものではありえない、と言っているにすぎない。だから、複雑に見えさえすれば、それは超自然的な何かによって創造されたに違いないと宣言している。それは科学ではない。」——おや、本当かい？ それで終わりだということか？ まさかそれはないだろう。下に試みるのは、我々の世界のデザインの、主たる科学的な証拠の概要である。そんな証拠は存在しないという話を聞いておられる方々のために、まとめてみた。

1. 地球の条件のファイン・チューニング

我々の惑星の条件は、生命のために極端に微調整されているということは、科学者の間でよく知られ、よく受け入れられている。地球はちょうど正しいサイズである。それは太陽からちょうど正しい距離にある。我々の太陽は恒星の正しい種類のものである。我々の大気は、多くのまれな、ラッキーな特性を持っている——このリストはいくらでも続く。これらの地球の微調整された特性のいくつかは、Science Uprising シリーズの「Episode 4」に、記録文書化されている：<http://youtu.be/WR51OrawqIg>

もちろん、唯物論者（生命とは動いている物質でしかないと主張する人々）は、このことをもっともらしく説明する：——宇宙には多くの惑星があるが、その中のごくわずかしが生命に適してはいない。我々がここにいるのは、我々の地球が、これらまれな惑星の1つだからにすぎない。——少なくとも、もし唯物論者の想定がもっともらしいなら、それはもっともらしい説明だと言ってもよい。すなわち、もし、条件のちょうどよい惑星がひとたび存在するなら、生命が自動的にそこに生まれ、時間がたてば、知的な (intelligent) 生物がそこに自動的に生ずることは、ありうるだろうといふことだ。こうした想定がもっともらしいものでないことが、下のポイント3と4に示されている。

2. 我々の宇宙の物理法則の微調整

同じ Science Uprising のエピソードとして、更に、広く受け入れられ、記録文書になっている次のような事実がある：——我々の地球は、そこで生命の栄える理想的な惑星であるだけでなく、我々の宇宙全体が、生命のために微調整されている。その基本的な物理常数（重力常数、プランク常数、電子の電荷や質量など）のほとんど、またビッグバンの初期値は、そこにごくわずかの変化があっても、その宇宙には、生命が生ずることもなく、したがって人間も生まれなかったであろう。スティーヴン・ホーキングが *A Brief History of Time* (1988) に書いたように、「驚くべきことは、これらの数の数値は、生命の発達を可能ならしめるために、非常に微細に調整された (finely adjusted) ように見えることである。」

唯物論者はこれをどのように説明するか？——多くのさまざまな法則と常数と初期値をもった、多くの宇宙がなければならぬ。そして我々がここにいるのは、我々の宇宙が、ここにいるためにちょうどピッタリの諸条件をもつ、宇宙の1つだからだ。A. J. Leggett は、*The Problem of Physics* (1987) で、我々の宇宙の微調整された特性のいくつかをリストして、こう結論している。

「このリストは無限に増大することができる。そして、どんな意識を持つ存在であろうと、それが存在するためには、基本的な自然の常数が、まさにその数値でなければならない、少なくとも、それに極めて近くなければならぬ、という結論を引き出すことができる。そこで人間原理について言い方を変えて、こう言うことができる：——基本的な常数がこのような数値をもつ理由は、もしそうでなかったら、我々がここに存在して、それに驚嘆することができないからだ、と。

ポール・デイヴィスは *Other Worlds* (1980) で、こう書いている：——

「もし我々が、無限数の他の宇宙があり、時間・空間的にも、超空間的にも無限だと考えることができれば、我々が観察する膨大な宇宙の生物に、何も驚くことはないことになる。我々はまさに自分の存在によって、それを選んだのだ… 多宇宙説は、なぜ我々の周囲の多くの物がそのようなになっているかを、確かに説明するだろう。なぜ我々がこの惑星の、ある安定した星の近くに自分がいるのかの理由を、そのような場所でのみ生命ができると説明ができるように、この宇宙のもっと多くの一般的特徴を、この人間原理の選択によって説明することができるかもしれない。」

この時期に、他の宇宙が存在するという証拠は全くなく、どんな証拠もあり得ない。同じ宇宙の法則を持つが、それがランダムな基本的常数をとることはない（あるいはランダムな物理法則もないだろう）。したがって、我々の宇宙がちょうどピッタリなのは、もしそうでなければ、我々がここに存在せず、驚嘆もできなくなるからだ、というのは完全に非科学的である。面白いことは、昔から今まで、より良い条件をもち、我々を待っている、これとは別の宇宙または現実が、あると信ずる者がいるとあって、宗教的信仰者を嘲笑してきた人々が、今、ファイン・チューニングの証拠によって、「無限数の」異なった条件をもつ宇宙を、**発明しなければならなくなった**ことである。

ついでだが、多くの科学者、たとえば生化学者の Michael Denton (2016 年の彼の著 *Fire-Maker*、および関連するビデオを見よ、<https://www.amazon.com/Fire-Maker-Book-Designed-Transform-Privileged/dp/1936599368> <https://youtu.be/an98jVCyApo>) および物理学者 Robin Collins (*The Fine-Tuning for Discoverability*, chapter 6 を見よ

<http://oxford.universitypressscholarship.com/view/10.1093/oso/9780190842215.001.0001/oso-9780190842215-chapter-6> <https://youtu.be/an98jVCyApo>) は現在、地球上の諸条件と物理学の諸法則は、知的生物が生き残るために微調整されているだけでなく、それらはまた、テクノロジーの発達と、科学上の発見のために微調整されていることを、我々に示しつつある。また、天文学者 Guillermo Gonzalez と哲学者 Jay Richards は、地球は人間が生き残るために、うまくデザインされているだけでなく、それは同時に、宇宙の残りの部分を見るために、理想的な位置におかれていることを示した。
(<http://youtu.be/QmIc42oRjm8>) これらの微調整が面白いのは、「諸条件がちょうどピッタリなのは、もしそうでなかったら、我々がここにいる、驚嘆することができないからだ」などと言って、これを説明することができないからである。我々はやはり、驚嘆してここにいることはできないだろう——もし地球上の諸条件と、火や水や金属の特質が、テクノロジーや科学的発達を可能にするように、これほどに微調整されていなかったなら。これらのファイン・チューニングの唯一の説明は、それが我々のデザイナーからの贈り物であり、その目的は、我々に挑戦し、かつ楽しませるためだということである。

3. 生命の起源

しばしば主張されることだが、科学は今、最初の単純な生命体が、完全に自然のプロセスによって、どのように生じたかを理解できる、瀬戸際までできていると言われている。この主張が、いかに根拠のないものであるかは、我々の進歩したテクノロジーをもってしても、いかなる自己増殖機械をも、設計するに程遠いことを知るだけでよい。それはいまだに純粋なサイエンス・フィクションである。(http://en.wikipedia.org/wiki/Self-replicating_machines_in_fiction) だとすれば、そのような機械が、どうして純粋な偶然によって生じたか想像できるだろうか——微調整された法則をもつ宇宙と、微調整された条件をもつ惑星があったと仮定しても？ そのような機械にテクノロジーを加え、再生を目標として前進させるとき、我々はゴールポストを動かすだけである。

あるいは、いつの日か、人間のエンジニアが、生物世界でどこでも見られるような、自己増殖機械をデザインするかもしれない。しかしそれは、私の生きている間に起こることはなく、また単純ではないだろう。そして絶対に、そのような機械が、デザインなしに生じ得たことを示すことはできないだろう。

4. 人間の進化

進化論者は、どのようにして最初の生き物が知的生物に進化したかを、自分はずでに理解していると思っている。しかし彼らは、実は全く何も理解していない。それがわかるため

に理解すべきことは、彼らは、4つの基本的な、非インテリジェントな物理的な力を、並び替えるだけでよいはずだと思っていることだ。そのようにして、地上の基本的な物理学の粒子から、コンピューター、百科事典、飛行機、またインターネットなどが現れてきた。私の新しいビデオ「なぜ進化は違うのか？」がこれを論じている。<http://youtu.be/aJua-0FpnnI> 物理学の法則は非常に聡明にデザインされていて、それはおそらく、他の惑星で起こったすべてを説明できるだろう。しかし、それらは、コンピューターや自動車やアップル iPhone の発達を、独力で説明できるほど、聡明でないのは明らかである。

このビデオはまた、化石の記録が、人間のテクノロジーの発達にいかによく似ているかを指摘している。そこには、同じ理由で、主要な新しい特徴をもった、大きなギャップが現れる。新しい「目」や「綱」や「門」の動物種を生み出す、新しい器官の漸次的な発達は、新しいが、まだ役に立たない、特徴の発達を要求するだろう。したがってダーウィニズムは、これらの新しい特徴の発達が、仮に徐々に起ったとしても、それを説明することはできない——つまり徐々に起らない。

5. 人間の意識の起源

6. 時間の始まり

——以上（最後の2セクション省略）